

## 放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 23 年 4 月 19 日(火) 19:30～20:30
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7名 出席委員数 6名 欠席委員数 1名

出席委員の氏名

稲沢 裕子／椛山 晶典／川畑 裕徳／俵 淳子／深田 剛／三井 直子

欠席委員の氏名

野村 真仁

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／小野 健太郎／中原 優子／沖元 眞実／元井 庸介／

米澤恵美子／宮田 愛

### 4 議題

審議(あまみエフエムの放送する番組全般について)

### 5 議事の概要

- (1) あまみエフエム、および番組審議会についての説明
- (2) 審議(あまみエフエムの放送する番組全般について)
- (3) 次回の審議議題について

### 6 審議内容

(1)あまみエフエム、および番組審議会についての説明

—放送局長 麓より 挨拶

—放送局スタッフ 自己紹介

—番組審議委員 自己紹介

—放送局 丸田より

- ・ NPO 法人ディ！あまみエフエムについての概要の説明
- ・ 番組審議会についての説明
- ・ 欠席委員についての説明

—番組審議委員の、委員長、副委員長の選出

委員長に 深田 剛氏、副委員長に 稲沢 裕子氏が満場一致で選任された。

(2)審議(あまみエフエムの放送する番組全般について)

#### 深田委員長

—委員長就任にあたっての挨拶がある。—

それでは、今日は第一回ということで、各委員の方々からご意見、ご要望があるのではと思いますので、ひとりひとりお話していただければと思います。感想等でもいいです。それでは川畑さんからお願いいたします。

## 川畑委員

先ほどあまみエフエムの概要の資料を確認する中で、気になったのですが、視聴可能エリアについて、龍郷町のカバーエリアとして、40%の世帯しか聞こえないということで、この辺りが聞こえるようになればいいなあと思いました。車に乗っていてもこの辺りで聞こえなくなったりするのが気になっているので。

## 椀山委員

いつも朝など移動のときによく聞かせてもらっています。そういう時は、NHK や MBC と、チャンネルを回して選びながら聞いています。思うのですが、朝は、もう少し元気の出るような内容の番組があるといいなど。他の局のものを聞いたりすると、生放送の中継などがもっと入っているような気がします。聴いて、「よし、やるぞ!」という気持ちが起こるようなものがあると、朝から聞こうという気になると思います。朝は一日のスタートなので大事ななど。

## 俵委員

感想になりますが、昨年の豪雨災害のときに、住用に、災害支援で救護担当で入ったのですが、2 日交代などで入っていて、疲れている被災者の方々はもちろん、自分もすごく疲れていたときに、ラジオを聴いていて、がんばろうという気持ちが電波を通して伝わりました。そのときはすごく、聞いた方々は励みになったのではないかと実感しました。そのときの住民の方々と関わりから、住用に働きたいと思っていたのですが、今回、念願かなって住用に異動になったのですが、移動時間がこれまでの名瀬勤務より倍かかっています。そんな、朝晩の通勤時間に感じることもありますが、住用方面から名瀬方面に帰る人たちは、すごいスピードで帰っていくんですね。夕方の5~6時の間とか、トンネルの中でもスピードを落としていない状況なので、子供も道路沿いを通るので、それらの注意喚起のメッセージなどを、夕方の時間に一言いれてもらったらいいかなと思います。また、先ほども意見がありましたが、朝にも、元気が出る声かけなどあれば、やる気が起きていいかなと思います。

## 三井委員

感想、要望、質問があるのですが、まず感想として、私は、島をいったん離れて戻ってきたのですが、島に戻ってきたときに、あまみエフエムが出来ていて、私のイメージでは、奄美はもっと閉鎖的というか、自分の情報を発信する場などはあまりないし、情報を受けるにしても、テレビには奄美の情報はそんなになく、新聞も読む人が限られている、というそんな印象でした。でも、あまみエフエムは移動しながらも聞けるし、入っていきやすくていいなど。自分のメッセージも発信できたりして、インターネットとかブログなども今はありますが、それともまた違う形態で、新しい取り組みで、島を盛り上げるにはすごく可能性があるなど、うれしく感じました。自分自身も CM なども出させてもらって、初めてのラジオ体験などもさせてもらっています。

要望なのですが、いつも移動しながら、何かしながら、の「ながら」で聞いているのですが、いつどんな番組がやっているかなどは、ほとんど把握できていません。(配布されている)この番組表が一枚、新聞などは難しいかもしれないのですが、一般の人も見ることができるようなものがあるといいのではないかなと思いました。

あと、質問ですが、(配布されている)概要をみて思ったのですが、「奄美の生活を便利にするための情報、さらには奄美を島内外へ向けて発信するメディアとして」とありますが、「奄美を島内外へ発信するメディア」とは具体的にどのようなことでしょうか。

## 一放送局 麓より

基本的に地元に対しての放送を、島に島のことを伝えるということで、島に特化した番組を伝えているのです

が、島外に発信ということでは、初段階としては島外であまみエフエム主催で奄美のイベントを開催したりということだったのですが、また今回、あまみエフエム 4 周年目にあたる日から、インターネット放送をリアルタイムで行うことになりました。地元の難聴区域の解消の手段のひとつとして行うのですが、実際、インターネット環境があれば、日本中、世界中に届くということで、今後は、島外の出身者ともいろいろなやり取りをして、パイプ作り、関係作りをしていきたいというところです。

### 稲沢副委員長

島は狭いのに、島外の出身者のインタビューや、保育所などに取材に行ってみたり、いろいろな番組を盛りだくさん持っていて、がんばっているなど思いながら聞いています。

以前は、元ちとせさんや中孝介さんなどだけが、「あまみエフエム会員です」とっていたのが、最近は、その他の会員の方々も会員の案内などをされていて、さらに身近になったなど思っています。ディ！お茶どや、ヒマバンミショシーナ！など、ネーミングもすごくいいなど。

先ほど、「住用でラジオが聞ける」とのことでしたが、私は、ときどき在宅歯科衛生士をしているので、住用に行ったりするのですが、朝戸のトンネルから住用側はあまみエフエムは聞こえないと思っていて、トンネルに入ったらずぐに CD に変えていました。宇検に行くと、また 76.3mhz(宇検エフエムの周波数)で入るようになるので、またつけるのですが。笠利方面に行くときは、電波が入ったりはいらなかったり、住用方面よりは入るので、つけているのですが。

また、お店でもあまみエフエムを流しているのですが、島唄が流れているときに観光客が入ってきたりすると喜ばれたりするので、いいなと思います。

### 深田委員長

奄美でメディアといえ、今までは新聞とテレビでした。聞いている人もいたとは思いますが、ラジオはほとんど聞かれていませんでした。そこに、ラジオを聴くという習慣を格段に根付かせたディさんはすごいなと思います。

ただ、ひとつ心配事があるのですが、逆に、島の人にラジオを聴くという習慣ができるというタイミングと併せて、今、日本全国の FM が聞けるというシステムが整ってきて、よりみんなで結束して、コンテンツの提案をしていったり、作りこんでいかないと、他のラジオも聞けるということで、一層いろんな意見を交えながらやっていかないといいなと思います。僕もインターネットをやりながら、常にいろんな情報に触れて危機感を持ってやっているの、ぜひお力になりたいと思います。皆さんと色々な意見を活発に交わしながらやっていけるといいなと思います。そしてどんどんあまみエフエムが力強く拡大して行って、ここ(配布してある概要)にも書いてありますが、最終目標であるあまみ群島全域をカバーというところに貢献できればなと思います。

ここで一度事務局に進行をバトンタッチさせていただきます。

### —放送局 麓より

いろいろとご意見をいただき、ありがとうございます。今後も、遠慮なくほめ言葉以外のご指摘もいただければと思います。

ご指摘のあった、聴取エリアの問題について説明させていただきます。コミュニティエフエムの制度では、出力ワット数が20wと制限されています。ラジオには、コミュニティエフエムと県域局というものがあり、県域局は、NHK、MBC などで、あまみエフエムは、奄美市におけるコミュニティエフエムとなりますが、県域局においては、鹿児島

のほうでは、1kw、名瀬局では100wで出力したりしています。コミュニティエフエムは20w制限がある中、中継局は増設してよいので、市と県の予算をいただいて、笠利中継局と、住用中継局を設置できました。

実は、県域局では、周波数を何種類かもらうことができます。地区ごとに周波数を分けることができるということです。しかし、コミュニティエフエムは周波数を1波しかもらえません。ということは、名瀬局、住用局と笠利局から出る周波数が重なる場所では混線する、放送がちゃんと聞こえないということです。そこを奄美通信システムさんに微調整をしながら設置していただくことによって、何とか放送エリアをカバーしています。さらに、だいたいにおいて中継局は山頂に立てます。内地でいうと高いところに立てるとちゃんと聞こえるという理屈なのですが、内地では平地であるべきところが奄美大島の場合は海になります。要は山と海の際に集落が点在しているということになるので、電波状況をエリアカバーするのが難しいわけです。逆に言うと、東シナ海と太平洋上に電波を立てたほうが、入り江の奥まですべての集落に電波が届くという理屈になります。そんな中で、なんとか電波状況を改善しようと試みています。

しかしながら、奄美大島に島の情報を、ということで、奄美市以外にも放送を届けたいと思っています。とはいえ、コミュニティエフエムは制度上、各市町村ごとの放送局になるのですが、今年、コミュニティエフエムの規制緩和が少しずつすすめられ、隣接する行政区域もエリアをカバーして良くなる可能性がでてきました。実際大和村からの要望、依頼などができてきていて、そういったことが今年、来年などで進めることができればいいなと思います。あまみエフエム自体は自力で、サポーター会員の会費と広告収入で運営し、一昨年からようやく市の行政広告費をやっということができるようになりましたが、実際問題として、今の制度上で、大和村、龍郷町と、別々に各市町村ごとに別々に法人を立て、放送局を立てることは運営上厳しいですし、非効率です。昨年一月に、エフエムうけんさんが開局しましたが、これは公設民営で村が100%出資です。年間の運営費は村が出しています。そのような形であれば設立の可能性はあるかと思いますが、自力での運営ということでは、奄美市で私たちが厳しい中、なかなか運営は難しいと思います。スタジオ、送信所、などのコストの関係も難しいですが、電波ですので、届かしさえすればカバーできるということになります。今後も龍郷町や大和村へのエリア拡大を、ニーズがあり、行政の了承が得られれば、進めていけたらなと思っています。

その中での自助努力として、私たちはサイマル放送、インターネット放送を進めさせていただきました。また、20w制限がある中、(配布されている)概要の説明にもありますが、ラジオの受け手側の努力も必要になってきます。受け手側のちょっとした工夫で聞こえがよくなってきますので、そういったこともちゃんとアナウンスして聞けるような状況を作っていけるようにしようと思っています。

そういった状況の中、昨年の豪雨災害にも、災害のときは、私たちは私たちが放送をがんばったのですが、中継局のメンテナンスなどをしていただいている奄美通信システムさんが、あの日も自家発電を運んでくださったりして放送を届けることができたわけです。また、最大メリットだったのは、住用中継局は昨年たまたま開局することができ、一般電話がとまった中でも放送を各集落に届けることができたということです。市や山間集落のように、孤立した中で放送を届けることができ、不安を取り除くことを助けることができたと思っています。

以上、制度上の問題もあり、不具合が生じているということも少しご理解いただければと思います。

#### 一放送局 丸田より

その他、委員の皆さまからご質問などあればどうぞ。

以下の質疑応答がある。

- ・ 5月1日から始まるインターネット放送は、リアルタイムですか？  
→ リアルタイムです。
- ・ インターネット放送は、リアルタイムということで、以前のものなどは聞くことはできないのですか？  
→ できません。今回のリアルタイムのインターネット放送以外に、あまみエフエムのウェブラジオというものがあり、それですと過去のコンテンツも少しだけですが聞いていただくことができます。
- ・ サイマル放送のサイマルとはどういう意味ですか？  
→ なかなか聞きなれない言葉ですが、地上波の放送を、インターネットによる再送信すること、それがサイマル放送と呼ばれるようです。  
サイマル放送については、音楽著作権についての交渉があったのですが、なんとか各団体と交渉を進め、年間のコストがかかるのですが、そういったことを経て、開局を進めているところです。
- ・ ラジオが聞けないところでもネットで聞けるということですね？  
→ そのとおりです。
- ・ スマートフォンなどでも聞けるのですか？  
→ 現段階では、iPhoneの、アプリでiコミュラジオというものがあるようですが、それで聞くことができるそうです。のちのちドコモなどにも広がっていくのではないのでしょうか。島外の出身者などにも聞いてもらえたらと思います。
- ・ 英会話のオバは今も放送していますか？  
→ 夕方のゆぶいニングアワーの中のコーナーであります。みなさん、番組名のイメージしている表記と違うこともありますので、注意してくださいね。ラジオなので、なかなか番組名を目で見る機会がないと思いますが、今後はそういった「見える」プロモーションを進めていかねばと思っています。
- ・ お昼の生放送の名前ですが、ヒマバンミシヨシナ？ヒマバンミシヨシーナ？どっちですか？  
→ ミシヨシーナです。ミシヨティナ、などというところもあり、地域で言い方が違いますね。  
この名前について、はじめはヒマバンカディーナ(お昼ごはん食べた？:目下の人に使われる)だったのですが、すぐに年配のリスナーの方から指摘がはいり、カディーナはないだろう、ミシヨシーナ(召し上がりましたか?)にすべきではないか、とのことで、2週間もしないうちに番組名を変更した経緯があります。

### (3) 次回の審議議題について

「泉清次の甦る。こころの一曲」について

#### 一放送局 元井より

この番組は、毎週火曜日の13時からの一時間と、同日夜20時からの再放送で放送しています。

今月からスタートしました。泉清次さんは新民謡を歌われる方で、昨年度までお昼のヒマバンミシヨシーナのパーソナリティをされていたのですが、自分の好きな年代の曲を選んでかけるのがお好きだったりして、「毎週木曜日の人の生放送を聞くのを楽しみにしています」という声もいただいたりしていました。どの世代も、自分たちの好きな世代の歌をかけてほしいという希望があるのですが、今回、清次さんが同年代の方々に人気な曲をかけたい、そしてご自身もそういった歌を届けたいという思いがあり、個性に特化した番組がひとつあってもいいのではない

かという思いで作りました。今回、初めて特定の年代のリスナーに的を絞って作りました。他の世代の方々がきいてどうなのか、という感想も含めて意見を聞かせていただければ幸いです。

俵委員より以下の意見をいただく。

委員の方からの意見として、早朝の時間帯などのほうが聞いていただける方が多いのではないかと。年配の方々は、朝の暗いうちから早起きをされていて、やることがないということもいらっしゃり、そういう方々が喜んできかれるのではないかとのこと。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日  
次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 23 年 4 月 30 日(土曜日)17:30～「ゆふいニング・アワー」番組内で放送
- ② 書面の備置き:平成 23 年 4 月 30 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 23 年 4 月 30 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし